

IAQG成都会議について

1. はじめに

IAQG成都会議が、2015年4月20日～23日に中国 四川省の成都市にて開催された。IAQG会議は、年2回（春、秋）開催され、昨年10月開催のロングビーチ会議に引き続き今回は通算37回目にあたる。以下に今回の会議について紹介する。

2. 会議概要

- (1) 規格関連では、9100規格次期改正の2016年発行に向けて、当該規格並びにその関連規格に関する審議が主要議題となった。9100規格に関しては、9100:2016作業ドラフト（WD2）に対するコメントのレビューを実施した。WD2をベースに作成される9100:2016調整ドラフト（CD）を7月中旬にリリースし、9月の各セクター9100チーム会議でコメント事前レビューを行い、10月のIAQG会議でコメントレビューし、2015年12月に投票ドラフトをリリース予定である。
- (2) 認証制度関連では、発行が遅れている9104-3規格（審査員資格基準及び研修コース基準）改正版の審議や審査員の力量妥当性確認プロセスが主要議題となった。9104-3規格改正による移行に関しては、その移行規定を検討するチームを設立することになり、日本としてもその検討チームに積極的に参加しスムーズな移行を推進していく予定である。
- (3) 製品及びサプライチェーン改善関連では、IAQG独自活動である「強固な品質マネジメントシステムの構築」で国内展開した追加

のガイダンス文書の採用を提案し、IAQGとして採用する方向で検討することになった。

- (4) その他、パフォーマンス、スペースフォーラム及び各分野の関係強化等の分科会（詳細後述）が行われた。我が国は、IAQGのほとんどの活動へ積極的に参画し、また、上述の「強固な品質マネジメントシステムの構築」について具体的なガイダンス文書を提案するなど、我が国の意見をIAQGに具申し、反映することが出来たと考える。

3. 各論

以下に今回の会議における総会、執行委員会、戦略検討ワーキンググループ並びに主要な分科会等の内容を紹介する。

(1) 総会（General Assembly）

総会では、執行委員会報告、セクターレポート、IAQG財務報告、戦略検討ワーキンググループ会議報告、各分科会活動の進捗報告などが行われた。

アジア太平洋セクターレポートでは、アジア各国の活動状況の他、APAQG台中会議／APAQG 9100チーム会議概要などが報告された。

総会での議決事項は以下の6件であり、全て承認された。

議決事項

- IAQGロングビーチ会議議事録
- 2014年IAQG決算案
- 2015年IAQG予算修正案（新OASIS開発予算の計上等）



総会の様子（全体）



総会の様子（アジア太平洋セクターレポート：寺境 弘之氏（MHI））



総会の様子（投票メンバー席）

- IAQG戦略検討ワーキンググループリーダー交代
- IAQG 運営管理チームチャーターの改訂
- IAQG 規則112の改訂
（付随組織（Subsidiary Bodies）の追加）

(2) 執行委員会 (Executive Committee)

執行委員会は、IAQG会長、各セクターリーダー、財務リーダー等から構成され、IAQGの組織運営に関連する重要事項を討議し、その結果が必要に応じ総会に上程される。今回の執行委員会会議では、SWG（戦略検討ワーキンググループ）リーダーの交代、IAQG手順書の改訂、2016年春のIAQG会議日程（シンガポールで開催、日程を従来の2月予定から4月に変更）、2015年予算改訂提案等について協議され、総会への上程が承認された。また、SWG（戦略検討ワーキンググループ）及び財務コミッティーに対し、リーダー代理を

選出するように指示がなされた。

(3) 戦略検討ワーキンググループ (Strategy Working Group)

戦略検討ワーキンググループは、各セクターリーダー／代表者、分科会のリーダー等から構成され、下位の組織の活動を統括するとともに、IAQGの上位戦略を検討しその成果を総会に上程する機能を持っている。今回の会議では、OPMT（国際航空宇宙認証制度管理チーム）の活動計画変更、今後3年間の財務計画等について協議され、承認された。また、Performance（パフォーマンス分科会）及びPSCI（製品及びサプライチェーン改善分科会）が、正式な付随組織(Subsidiary Bodies)となることが承認された。さらに、2015年の課題やステークホルダーの期待について協議され、各セクターで必要な情報を収集／検討し、次回の対面会議（7月 ベルギー ブリュッ

セル)にて引き続き協議されることとなった。

(4) 規格要求分科会 (Requirements)

本分科会では、9100規格（国内ではJIS Q 9100規格）をはじめ、製品とプロセスの整合性・完全性を改善していくための品質要求事項やガイダンス文書を作成・維持している。今回の会議では、後述する9100規格や、9100規格との同時期改正を目指す9101規格及び9100シリーズ規格（9100規格を基に作成されている9110、9120及び9115規格）の他、現在IAQGで開発・改正中の規格について作業状況が報告された。JAQGからは、3月に開催されたアジア太平洋セクター(APAQG)の作業チームによる9100規格の改正に関する会議を行ったことのほか、国内では、毎月規格WGを開催し、SJAC 9102のB改正版やSJAC 9104-2のA改正版を発行したこと、及び9116規格の新規発行の準備を進めていること、並びに9102規格のB改正版のFAQ（よくある質問と回答）や9101規格のE改正版のFAQ等の展開支援文書を公開したこと等を報告した。

主な規格改正作業の実施状況を以下に紹介する。

①9100

ISO 9001次期改正に合わせ改正検討されている9100規格について、ISO 9001:2015改正動向の情報共有及びIAQG9100チームの対応、9100:2016作業ドラフト(WD2)に対するコメントのレビュー、調整ドラフト(CD)と展開支援文書の作成計画、9100シリーズ規格(9110, 9120, 9115)の改正活動進捗レビュー、9100シリーズ改正統合スケジュールの見直し及び今後の活動ステップに対する協議のため、3日間の会議が開催された。WD2は、9100チーム内のISO/

TC176フォーカルメンバーが入手したISO 9001:2015 FDIS (Final Draft International Standard)のPreliminaryバージョンに基づき作成されたもので、成都会議前に各セクターでレビューし、FDISでの変更が9100に影響すると判断される約60箇所に対してコメントが提出され、その内容についてレビューを行い、処置について審議した。主なレビュー／処置結果は次のとおりである。

- ・リスクの定義は、9100として追加せず、ISO 9001の定義を採用し、関連箇条に注記を追加
- ・文書化した情報(箇条7.5.3)、運用の計画と管理(箇条8.1)、外部から提供されるプロセス・製品・サービス(箇条8.4)及び製品とサービスのリリース(箇条8.6)に関する9100追加要求事項の見直し
- ・製造管理とサービス提供(箇条8.5)の9100追加要求事項及び細分箇条構成の見直し

また、JAQG/APAQGからの提案で追加された「コンプライアンス、倫理(Ethics)及び製品安全の重要性の認識」に係わる要求事項について、審査での取扱い時のバラつきが懸念されるという理由から特にAAQGメンバーから追加反対の意見があったが、国内業界及びステークホルダーからの意見を反映したものであること、また昨年10月の協議結果で採用とした経緯から、CDには含めることで合意された。9100の展開支援文書(主な変更概要、要求事故の意図明確化、変更箇所と根拠理由等)について、ISOで作成中のISO 9001:2015の文書も考慮し、CDリリース時期に合わせて一部作成することとなった。9100シリーズ改正統合スケジュールについては、これまで通り9100シリーズ規格及び9101も同時期に改正

する方向から変更はない。今後の活動スケジュールとしては、ISO 9001 FDISリリースが2015年7月の前提で協議され、9100:2016 CDを7月中旬にリリースし、9月の各セクター9100チーム会議でコメント事前レビューを行い、10月のIAQG会議でコメントレビューし、2015年12月に投票ドラフトをリリース予定である。

②9101

9101規格は、9100シリーズ規格に対する審査要求事項を規定する規格で、展開支援文書の最新化・改善次期改正活動開始のため、リーダーのMHI 河本正博氏により進行され、3日間の対面会議が開催された。次期改正（Rev.F）については、9100シリーズ規格次期改正と同時期に改正予定で計画しており、前回のIAQG会議で作成した設計仕様書に基づき、改正作業を行っている。今回の会議では、次期改正における関連規格（ISO/IEC 17021-1 FDISと9100 WD2）の影響分析をサブチームに分かれ実施し、9100次期改正の作業ドラフトに盛り込むべき事項の特定と草案作りを行った（例えば、9100シリーズ規格及びISO 17021-1の参照箇条番号、用語及び定義の見直し）。また、展開支援文書の見直し・作成として、9101現行版（Rev.E）で導入したプロセスの評価マトリックス（PEM）に関するFAQ追加要否等の協議を実施した。今後、審査報告書のオンライン入力システムも検討されている、OASIS Next Generationプロジェクトの影響も9101チーム担当者を選任し適宜確認・調整していく予定である。9100改正同様に、調整ドラフトを作成（8月）し、投票ドラフトは2015年12月にリリース予定である。

③9146

9146規格は、航空宇宙製品の設計、製造から引き渡しまでの各プロセスにおける異物管理に対する要求を規定するため、2014年のIAQGロングビーチ会議で正式に開発することが承認された新規開発規格で、規格案作成のための協議を実施するため、期間中5日間の対面会議が開催された。今回の会議により、開発承認後、規格作成チームで検討を進めてきた規格案に基づき、各社で実施している異物管理の手順は尊重の上、手順の元となる要求をプライム側、供給者側の双方の観点から検討し、規格案の作成を完了した。6月に調整ドラフトを各セクターに展開の上、以降修正を実施、Ballot（投票）ドラフト作成の予定である。

④9138

9138規格（統計的な製品合否判定に係る要求事項（仮））は、抜取検査などで実施される抜取検査方式とその手順を規定するため、2012年のIAQG名古屋会議で正式に開発することが承認された新規開発規格で、各セクターに展開済の調整ドラフトに対する修正案検討、FAQの作成等を実施するため、期間中3日間の対面会議が開催された。今回の会議により、調整ドラフトに対するコメント反映を実施、集約できていないコメントを再度集約の上、6月にBallot（投票）ドラフト作成の完了の予定。併せて、引き続き規格利用者を支援するガイダンス文書に対する協議を実施、改正案の作成を実施、順次改正していくこととなった。

⑤9120

9120規格は航空、防衛及び宇宙分野の販売業者のQMS要求事項を規定する規格であり、9100規格を基に、設計・開発や製造に

関わる要求事項を削除する一方で、模倣品や不正品の防止、購買製品の適合性に関する文書の取り扱い等、外部から製品を調達し販売する組織に特有の要求事項を追加して規定している。昨年秋のIAQG会議で改正作業を開始した後、9100規格の改正案を基に要求事項を追加・削除して作成中の改正案についてAPAQGメンバーによる確認・協議を実施した。

⑥9115

今回は2日間の会議が開催された。9115規格は納入ソフトウェアの品質要求事項を規定する規格であり、9100と同時期に改正を行う予定である。会議では規格の構成は初版と同じく、9100:2016案の本文中に9115固有の要求等を追加する形で改正案を作成した。この改正案には、サイバーテロ対策としてのセキュリティ要求を中心に、APAQG/JAQGから提案した非機能要件の考慮なども取り込まれた。今後、会議の結果を取り込んだドラフトをJAQGとしても検討を行う予定である。

(5) 製品及びサプライチェーン改善分科会 (Product and Supply Chain Improvement)

本分科会では、SCMHを作成・維持することにより、サプライヤが顧客の要求／期待や組織の目標を満たすガイダンスや最適手法を提供している。今回の会議は4月20～22日の日程で開催され、2015年戦略的目標に関連して、今年度作成予定のSCMHの進捗状況確認を実施した他、新たなSCMHテーマの検討、認知度向上のためのSCMH Webinar (=オンラインセミナー)の昨年の試行結果を踏まえた今後の実施計画の協議、SCMHユーザ登録データ分析に基づくSCMH活用状況の確認、ユーザ登録者に対しての情報提供及び情報収集に

関する協議を実施した。

今年度作成予定のSCMHのうち3文書(①Handling of Work Instructions(作業指示書の取り扱い)、②Product Safety Culture Awareness(飛行安全教育)、③Compliance Education(コンプライアンス教育))については前回ロングビーチ会議でJAQGから提案した日本独自のガイダンス文書(ロバストQMSガイダンス文書)である。しかしライティングチームの人数不足でプロジェクトが開始出来ない状況も発生しており、JAQGからも積極的に参画する予定である。

また、今回新たに2つの日本独自のガイダンス文書(ロバストQMSガイダンス文書)を提案し、1件(リスクマネジメントを含んだ設計・開発の進め方)については、2015年下期以降にSCMHとしてプロジェクト開始していくことで合意された。残り1件(作業移管の管理)については、同じテーマのSCMHが既に存在するため、内容を精査し適用を検討していくこととなった。

(6) パフォーマンス分科会 (Performance)

本分科会では、IAQG会員会社各サプライヤの「納期遵守率」、「流出不適合発生率」を航空・宇宙、防衛産業業界のパフォーマンス指標の一つとして評価することを目的として、2010年より評価のベースラインとなるデータを収集・分析している。

今回の会議では2014年データ収集の経過報告があった。2014年は現在まで24のメンバー会社から975のサプライヤデータが提供されていることが報告された。(2013年は、262サプライヤ/16メンバー会社)データ数は最低限必要とされる1,000に近づいていることから期限を延長してデータを収集することとした。データ収集・分析結果は10月のIAQG会議で報告される。

(7) 防衛当局との関係強化分科会 (Defense Relationship)

IAQGは防衛当局との関係構築を通じて、IAQGが制定している9100関連規格およびその第三者認証制度を防衛当局に認知・受容して貰うこと等を目標としており、本分科会が防衛当局（欧州の防衛当局（NATO）や米国防務省等）と協働可能な具体的なテーマについて協議を行っている。

陸海の防衛装備品のステークホルダーへのアンケート調査を行い結果を入手したので、IAQG活動の認知度や期待等の傾向について確認するとともに、分析してフィードバックまでの作業項目、日程を設定した。

各セクターより、それぞれ防衛当局と活動について情報交換していることなどが報告された。日本からは定期的に防衛省へJAQG活動、IAQG活動の説明、および新規に制定した強固な品質マネジメントシステムについての意見交換等を行っていることを報告した。

(8) 国際スペースフォーラム (International Space Forum)

スペースフォーラムは、9100規格の宇宙品質要求への取り込みと業界への展開を目的として2003年に発足し、各国の主要宇宙機メーカーに加え、ステークホルダーである各宇宙機関（NASA、ESA、JAXA）もメンバーとして積極的に対応しており、情報交換の場に留まらず業界側からの要望として規格の作成への参加、変更提案等を活発に行っている。

今回の成都会議では、各セクターの活動状況の確認、9100改正ステータス、IAQG各WG活動への参加計画について確認した。今年度発行される9100CDに対しては、国際スペースフォーラムとして宇宙事業者・ステークホルダーからの要望を取りまとめていく。

また宇宙業界におけるQMSの動向として、

AAQGからRaytheon社におけるMission Assuranceについて紹介されたほか、APAQGからは中国における宇宙関連QMSについての概要説明をJAQGより実施した。

次回マドリッド会議では、3D printing、Cubesats、TRL等についての情報交換のほか、商用宇宙サービス産業に対する品質規格について、AAQGでのサーベイ結果に基づき以後の展開を協議する計画である。

JAQGスペースフォーラムとしては、今後もセクターを代表してIAQG活動へ参画し、国内業界へのフィードバック及びさらなる活動活性化を推進していく予定である。

(9) 国際航空宇宙認証制度管理チーム (Other Party Management Team (OPMT))

OPMTは、航空宇宙品質マネジメントシステムの認証制度の運用に必要な規格の作成、認証制度の運用管理や（各セクター間の）相互監視等を行っており、認証制度運用において重要な役割を担っている。今回の主要議題としては、発行が遅れている9104-3規格（審査員資格基準及び研修コース基準）改訂版の適用やその運用に伴い開発予定の審査員の力量妥当性確認プロセスについて議論された。一方、今後発行が予定されているISO9001:2015版とAQMS (9100/9110/9120) 2016版に基づき、審査員の研修コース改定、各関係機関に要求される移行条件等の要領を明確にする移行規定の作成が必要であり、そちらを優先しながら、その中で9104-3規格改訂版の適用や審査員の力量妥当性確認プロセスの開発計画を見直すこととなった。また、今回の会議においてその移行規定を検討するチームを設立することになったため、日本としてもその検討チームに積極的に参加しスムーズな移行を推進していく予定である。

4. おわりに

繰り返しとなるが、今回の会議では9100規格次期改正やその関連規格、並びに認証制度に関連した規格の審議が主要議題であったが、これらはIAQG活動の根幹をなす重要案件であり、引き続きJAQGとしても積極的に関与する所存である。

また、JAQGの独自活動である「強固な品

質マネジメントシステムの構築」については、国内展開した6つのガイダンス文書がIAQG SCMへの反映の目処を得るなど、当初の目的をほぼ達成した。

今後も我が国の意見をIAQGに反映させるべく、JAQG活動を継続する所存であるので、関係各位からのご指導・ご鞭撻をお願いしたい。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 菅野 義就〕